

板橋区子ども読書活動推進計画 2025（素案）に対するパブリックコメントの実施結果について

1. 募集期間：令和3年1月23日（土）～2月7日（日）＜16日間＞
2. 周知方法：①広報いたばし（令和3年1月23日号）  
②区ホームページ  
③区政資料室、区立図書館における閲覧
3. 件数：10件／3人（WEB提出3人）
4. 意見の概要と区の考え方

No.	項目	意見の概要	区の考え方（案）
1	図書の貸出に関する事	保護者が子ども（本人）の利用者カードで（代理）貸出できるのは小学生以下であるが、中学生以上も同様に適用してほしい。 中高生になると多忙で図書館に行く機会が増えるとは思えない。保護者に貸出の権限を与えることで家庭内での読書の機会は維持できると思う。	中学生以上は、代理による貸出はできませんが、WEB予約で取り寄せた本は、保護者の方でも受取り可能です。また、本の貸出サービスのほかにも、中高生の図書館利用が広がるよう、図書館内での学習スペースの提供や、中高生の居場所づくりとなるイベントや取組を進めていき魅力ある図書館運営を進めます。 ※取組事業 40・41
2	① ティーンズの居場所づくりに関する事	ティーンズ向けの新たな取組に期待している。ティーンズ専用の部屋があることは素晴らしい。できれば学習や読書の部屋とは別に、自由に友だちとおしゃべりができる、子どもたちの居場所ができればよいと思う。	新中央図書館2階のティーンズコーナー付近に「にぎやかテラス」という名称のテラスを設置します。コーナー内のティーンズ専用ルームでグループ利用による学習やサークル活動を楽しめるほか、テラスでは飲食と会話を楽しむ利用ができるようになります。
	② 就学前児童への取組に関する事	アメリカに滞在していた経験から、日本であまり見ない取組として、「就学までに1,000冊の本を読もう」という目標があり、達成した子どもの写真を飾ったりしていた。ブックスタートと共にスタンプカードのようなものを渡すと親への動機づけになると思う。	区立図書館では、20冊記載できる手書き式の一般向け読書通帳、妊産婦向け読書通帳「おやこのどくしょきろく」、小学生向け読書通帳、中学生向け読書通帳を作成・配布しています。通帳満了した方に、各図書館の窓口で記念品を差し上げており、今後も読書通帳の使用普及に努めていきます。 ※取組事業 10・15・62

<p>③</p>	<p>本の紹介に関する こと</p>	<p>絵本から児童書にうつる段階で何を読めばいいのか情報を得るのに苦労している。小学校高学年は中学年のとき、中学年は低学年のとき、低学年は年長のときなど、その時にどんな本を読んでいたのか子どもたちにおすすめの本を紹介してもらい、あるいは貸出の多かった本を図書館で掲示するなどよいのではないかと。</p>	<p>区立図書館では、年齢や学年に応じたおすすめの本を紹介しています。また、図書館サポーターの派遣により、学校や乳幼児施設での読み聞かせや本の紹介、区立図書館での展示やランキング表の掲示等を実施しています。 ※取組事業 3・10・11・20・45</p>
<p>④</p>	<p>おはなし会の企画に関する こと</p>	<p>予算があればプロ（区内在住の芸人、俳優、落語家など）におはなし会などをやってもらおうと面白い。来館のきっかけになり、読み聞かせの参考にもなると思う。</p>	<p>区立図書館では、乳幼児から大人まで、あらゆる世代を対象とした館内イベントを実施しています。区内の著名な作家から芸術分野で活躍しているプロの方に講座や公演などをお願いしています。 ※取組事業 3・8・16・17・28・29・43・63</p>
<p>⑤</p>	<p>館内の雰囲気づくりに関する こと</p>	<p>子どもの本があるコーナーでは、読み聞かせなど多少声を出してもOKという雰囲気を作ってほしい。大人と共有スペースのことが多く、規模によっては中々難しいとは思いますが、楽しく寛いだ雰囲気づくりが来館を促し、ひいては読書習慣につながると思う。</p>	<p>新中央図書館の1階は、児童エリアとボローニャ絵本館を併設したフロアで、賑わいのある空間として、親子での読み聞かせや友だちとの会話が楽しめるようになります。また、区立図書館では、来館者に楽しんでもらえる様々なイベントを実施しています。 ※取組事業 3・8・16・17・28・29・43・63</p>
<p>3 ①</p>	<p>不読率の悪化に関する こと</p>	<p>令和2年は特別な年であったが、結果として5年間で改善されていない。その理由を分析し、問題解決手段として、特にどの企画が有望と考えているのか知りたい。</p>	<p>東京都の計画が示した不読率減少割合を基準に、区でも計画策定時の不読率から3割減少させる目標値にした結果、達成に至りませんでした。不読率の減少には、大人が率先して読書環境を整備することに効果が見込めます。特に、朝読書の時間の確保や学校図書館の積極的活用を学校に協力を求めています。また、読書通帳の活用が定着するよう、学校との連携を引き続き行いながら、表彰制度を積極的にPRし、</p>

			<p>子どもたちの本を読む意欲やモチベーションを高める取組を進めていきます。</p> <p>※取組事業 15・21・22・26・32・33・35・36・60・62</p>
②	計画の目標に関する事	<p>最終的なゴールは、読書のすばらしさを子どもたちに伝えることだと思うが、どうなったときにそれが達成したと考えるのか。不読率の目標を超えることが一つの目安だと思うが、それ以外に評価方法はあるのか。</p>	<p>学校や家庭だけではなく、身近にいる多くの大人が子どもたちに積極的に関わり、読書の機会を作ることが重要だと考えます。数値的な評価から、読書を推進する取組の実施状況や、実施したことで得られた結果や効果を評価・検証していきます。</p> <p>※取組事業 3・7・16・21・22・26・28・32・33・36・62</p>
③	読書の効果と計画の方向性に関する事	<p>本を読むことのすばらしさは、将来、子どもたちが生きていくために必要な力がつくことだと考える。ただし、そこには大きく二つの正反対のよさがあり、一つは情操教育による心の豊かさを育む教育、もう一つは国語の力などの学力の向上であると考え。この二つはどちらも大切で、どちらも読書によって大きく伸びるものだが、その方向性は大きく違う。企画ごとにその方向性を明確にしたほうがよい結果につながるのではないかと。</p>	<p>計画策定の検討委員会において、「乳幼児期のできるだけ早い段階からの読み聞かせが重要である」ことを重点に考えたこと、国の「発達段階に応じた取組が読書習慣を形成する」こと、東京都の「成長段階に応じた取組」としての具体的事業が示されていることをベースにした構成としています。なお、今回いただいたご意見と同様の考え方も本文（1P）で示しています。</p>
④	計画の取組に関する事	<p>継続する取組が多く一つひとつよい企画で続けてほしいと思うが、不読率がよくなっていない。継続する企画も更にプラスαがあるとよいと思う。</p> <p>例えば、絵本づくりはよい企画で子どもも喜びそうだが、もっと喜ばせるために、作った絵本を図書館に置いて、一定期間貸出できるようにすると、他の本も借りて本好きになるかもしれない。</p> <p>絵本のテーマを板橋区に限定して、商店街を取材しお店ごとに絵本を作れば</p>	<p>素案の段階で提示していなかった新規取組事業を原案で提示します。素案に示した取組事業を含めて、全ての個別事業について、5か年における年次計画や事業目的を追記し、更に計画を具体化しました。今回いただきました参考事例については、今後事業を実施する際の参考とさせていただきます。</p> <p>※新規事業 12 事業</p> <p>1・14・15・40・41・53・54・55</p>

	<p>地域の活性化になるかもしれない。その本を商店街に置いたり、学校や図書館を巡回するなど、地域を巻き込んだ大きな企画を区のイベントとして期待したい。商店街ごとの読書スタンプラリーなども楽しそうである。</p> <p>区内の私立小・中・高校に働きかけ、読書することが入試の役に立つイベントがあると喜ばれるのではないか。英検や漢検に代わる読検を企画し、入試で加点されるなどがあると、受験で忙しくて本を読む時間が無いという子どもの不読率を下げるかもしれない。私立公立の垣根なく区が取組があると面白いと思う。学力向上はこだわってもよいポイントだと思う。</p>	
--	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--